

御位をすべらせられ候、後は不存、つよき御事と存候事、

〔十三朝紀聞後一水尾〕寛永六年十月、帝水尾令傳旨於幕府曰、遜位以二女正明繼之、大將軍家光

大驚謂自遷都以來久無女主、至今女宮踐極、後世曰外戚威之所爲也、諫之不聽、二十九日、以皇

女興子爲內親王、十一月八日、帝讓位於興子內親王、詔關白兼遐攝政、

〔玉露叢八〕御即位記

寛永七年秋九月十二日、御即位之事アリ、是ハ去年ノ冬、俄ニ御位ヲ第一ノ皇女正明ニ讓リ玉

フ事、昔奈良ノ京ニテハ數代オハセシカドモ、此平安城ニウツサセ玉ヒテ後ハ、八百年ニ餘リ

テ、タメシスクナキ御事也、此事江戶ニ聞召シ及バレ驚カセ玉ヒ、本朝ハ神國ニテ、天照大神ノ

マサシク姫神ニテ、天津日嗣ヲ萬世マデ傳ヘ玉フトハイヘドモ、久ク稀ナル御事ドモナレバ、

若シ後ノ代ニ、御外戚ノ御勢ニテ、カ、ル事モ有ケルヤラントイハレサセ玉ハン名ノ事々シ

カラシテ、義ヲ慮ンハカラセオハシマス、イトメデタシ、然ハアレド御脱履ノ叡慮カタクモノシ

玉ヘバ、強ク諫メサセ玉フニ及バズ、兎モ角モ叡心ノマ、ト思食ス事ニ成ヌ、武家ヨリ禁裏ヲ

崇敬シ玉フ事他ニ異ニシテ、賴朝卿ヨリノ以來、双ビナキ御事ナリ、其上御年モサカリニシテ、

萬機ノ政ヲイトハセ玉ヒ、堯ノ舜ニ讓リ、舜ノ禹ニ讓リシ昔ハ、皆年寄リテノコトドモナリ、然

ルニ今春秋ニ富セオハシマシテ、姑射ノ雲ヲ眺メ、汾水ノ風ヲ玩ビ玉ハンコト、然ルベカラザ

ル御計ヒ也ト武家ニハ思食セドモ、叡心ノ趣ク所ハ、武家ノ改正シク明ラカニ、オホヤケヲ敬

ヒ玉ヘバ、御幼帝ノ御事ニテモ、其タスケ守リト成玉ハン事イト安カルベシ、片々遂ニオリキ

サセ玉ヘバ、武家ニモモダシガタク、止事ヲ得玉ハズ、去程ニ預メ今日御即位アルベキニ定リ

ス、

〔二代實錄四十四〕元慶八年二月四日乙未、先是天皇陽手書送呈太政大臣藤原曰、朕近身病數